

シンガポール日本人学校設立の歴史と 身体活動の現状及び諸問題

— 小学部クレメンティ校の現地調査を通して —

栗原 武志

要 約

本研究では、これまで研究がなされてこなかった在外教育施設における子どもたちの身体活動に焦点をあて、その手始めとして、歴史が古く、在籍児童も多いシンガポール日本人学校を研究の対象とし、その設立の歴史と小学部クレメンティ校で学ぶ子どもたちの身体活動の現状と課題について研究を行った。その結果、以下の3点が明らかになった。

1. シンガポール日本人学校クレメンティ校では、児童の英語教育重視の為にイマージョン水泳が取り入れられており、体育における年間授業時間数の3割程度をイマージョン水泳に充当していること。
2. 文化の違いから、体育活動・体育行事への理解が得られにくい部分もあり、現地住民から騒音問題等が寄せられていること。また、現地の人との交流活動がなく、体育・スポーツを軸に置いた現地での交流がなされていないこと。
3. Haze 及びPM2.5など、子どもたちの健康を害する切実な問題を抱えており、これらの問題が、子どもたちの体育活動や外遊びなどの身体活動を制限し、また阻害する要因になっていること。

1. はじめに

近年、物や人の移動など国際化が進み、企業のグローバル活動が進んでいる。それに伴い日本の企業も、多くの国や地域に進出している¹⁾。これら企業のグローバル活動に伴い、現地に駐在し働く日本人やその家族も増えつづけ、外務省(2015a)によると、今や129万175人が海外在留邦人である²⁾。

1) 2015(平成27)年要約版海外在留邦人数調査合計によると、2014(平成26)年10月1日現在の集計で、わが国の領土外に進出している日系企業の総数(拠点数)は、68,573拠点で、前年より4,796拠点(約7.5%)の増加となり、本統計を開始した2005(平成17)年以降最多となった。

2) 2015(平成27)年要約版海外在留邦人数調査合計によると、2014(平成26)年10月1日現在の集計で、わが国の領土外に在留する邦人(日本人)の総数は、前年より31,912人(約2.54%)の増加となり、本統計を開始した1968(昭和43)年以降最多となった。

地域別では、「北米」が在留邦人全体の約 37% (477,507 人) を占め、1985 (昭和 60) 年以降一貫して首位を維持している。次いで、「アジア」約 29% (379,498 人)、「西欧」約 16% (204,711 人) の順となっている。これら 3 地域で全体の 8 割である。

在留邦人の増加とともに、海外の日本人学校で学ぶ児童・生徒の数も増加し、現在 21,027 名が海外の日本人学校 (小学部 16,291 名、中学部 4,736 名) で学んでいる³⁾。小学部・中学部とも、主として「アジア」で学んでいる者が多く、小学部では全体の約 80% (13,032 名)、中学部では、約 79% (3,752 名) を占めている。国別では、バンコク (3,063 名)、上海 (2,743 名)、シンガポール (2,053 名) ・ ・ ・⁴⁾ と続く。特にアジアの中心都市であるシンガポールにおいては、前年比の増減数で 4,944 人と、フランス (5,770 人)、タイ (5,015 人) について在留邦人が増加し、日本人学校で学ぶ児童・生徒の数も近年再び増加傾向にある。

これまで、在留邦人も多く一定数の日本人学校在籍者数もあったシンガポール日本人学校であったが、シンガポールに在留し日本人学校に学ぶ児童・生徒に関連する研究は少ない。越井 (1988)、渡辺ら (2004)、土肥 (2012) 等の日本人学校調査報告書が存在する程度である。越井 (1988) は、1980 年代に国際化時代における日本人学校の重要性に目を向け、シンガポールでの子どもの生活状況や学力、現地への適応のしかたについて、シンガポール日本人学校の保護者を対象に調査を行っている。渡辺ら (2004) は、シンガポール、クアラルンプール (マレーシア)、バンコク (タイ) の日本人学校を視察訪問し、各学校での施設視察や授業参観の様子をアジア日本人学校視察訪問報告としてまとめ、帰国子女教育の在り方について示唆を得ている。土肥 (2012) は、シンガポール日本人学校の現状と課題とし、シンガポールの教育制度や教育事情を分析し、シンガポール在住の日本人児童生徒の教育環境の変容について 1980 年代と比較している。

しかしながら、これらの研究は、シンガポール国内の教育制度や日本人学校で学ぶ子どもたちの学力や適応力の調査に止まっており、特に、子どもたちの遊びやスポーツ活動、体育活動などを含む身体活動の実際を取り扱った研究までには至っていない。約 2,000 名の児童・生徒がシンガポール日本人学校で学んでいるにも関わらず、子どもたちの健康問題に関して、生涯に渡って影響を及ぼす身体活動についての研究が存在しないことは、今後のさらなる国際化に伴い、シンガポール日本人学校ひいては海外教育施設で学ぶ子どもたちの増加に伴い憂慮すべきことであると考えられる。

そこで、本研究では、これまで研究がなされてこなかった在外教育施設における子どもたちの身体活動に焦点をあて、その手始めとして、歴史が古く、在籍児童も多いシンガポール日本人学校を研究

3) 海外における教育施設としては、日本人学校以外にも、補修授業校、現地校、国際校が小学部、中学部各々に存在する。2015 (平成 27) 年要約版海外在留邦人数調査合計によると、2014 (平成 26) 年 10 月 1 日現在の集計で、小学部補習授業校 15,200 名、現地・国際校 23,899 名。中学部補習授業校 3,783 名、現地・国際校 12,627 名。本文中の日本人学校小・中学部在籍者数と合わせると、現在 76,536 名が海外の教育施設で学んでいることになる。

4) バンコク (小・中学部合わせて)。上海は虹橋校、浦東校があり、虹橋校は小学部、浦東校は小・中学部の合計 3 校。シンガポールは小学部クレメンティ校 (723 名)、チャンギ校 (834 名)、そして中学部 (496 名) の合計 3 校の 2014 (平成 26) 年 4 月 15 日現在の在籍者数である (平成 27 年要約版海外在留邦人数調査)。また、シンガポール以降、日本人学校の在籍者が多い順にジャカルタ、香港と続く。

の対象とした。シンガポール日本人学校の設立の歴史と合わせて、小学部クレメンティ校で学ぶ子どもたちの身体活動の現状と課題について、明らかにしていきたいと考える。

2. 研究方法

本研究は、先行研究に関して文献調査をした後、2回の現地調査を行い、授業視察、インタビュー調査並びに現地校における文献収集を行った。以下、調査日程である。

1回目：2015（平成27）年6月6日～8日（計3日間）

調査内容：現地調査（体育授業及び体育施設視察）、インタビュー（K教頭先生）、対象校での文献収集

2回目：2015（平成27）年9月17日～19日（計3日間）

調査内容：現地調査（体育行事視察）

3. シンガポール日本人学校の所在と歴史

1. シンガポール日本人学校の現状と運営

シンガポール日本人学校は、シンガポール日本人会によって設立されており、シンガポール教育法に基づき1966（昭和41）年12月にシンガポール教育省に登録された私立学校である⁵⁾。2015（平成27）年9月現在、日本の初等部にあたる小学部2校（クレメンティ校、チャンギ校）及び中等部にあたる中学部1校（ウエストコースト校）が存在している。シンガポール日本人学校学校要覧「以下、学校要覧」（2015a）によると、2015（平成27）年2月末現在の在籍児童・生徒数は表1のとおりであり、今日約2,200名の児童・生徒が学んでいる。これまで、最も在籍数が多かった年が1996（平成8）年であり、その1996（平成8）年を100とすると、現在の在籍者数は1996（平成8）年と比較して74.1%程度まで下がるが、2010（平成22）年以降増加傾向にあり、直近5年間では年間在籍数が約500名程度増加し、2,000名を超えている。

表1. 2015（平成27）年2月末 シンガポール日本人学校在籍児童・生徒数

	中学部合計	クレメンティ校	チャンギ校	総合計
男（人）	250	403	444	1097
女（人）	267	368	440	1075
合計（人）	517	771	884	2172
学級数	16	26	30	72

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、29ページより作成

5) シンガポール日本人学校「学校要覧2015」日本人学校定款2条、シンガポール教育法令1957年23段第3節、認可登録番号227号、pp.15.

表2. 2015(平成27)年2月末 小学部クレメンティ校在籍児童数

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
男児(人)	68	70	61	74	63	67	403
女児(人)	69	73	54	60	57	55	368
合計(人)	137	143	115	134	120	122	771
学級数	5	5	4	4	4	4	26

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、29ページより作成

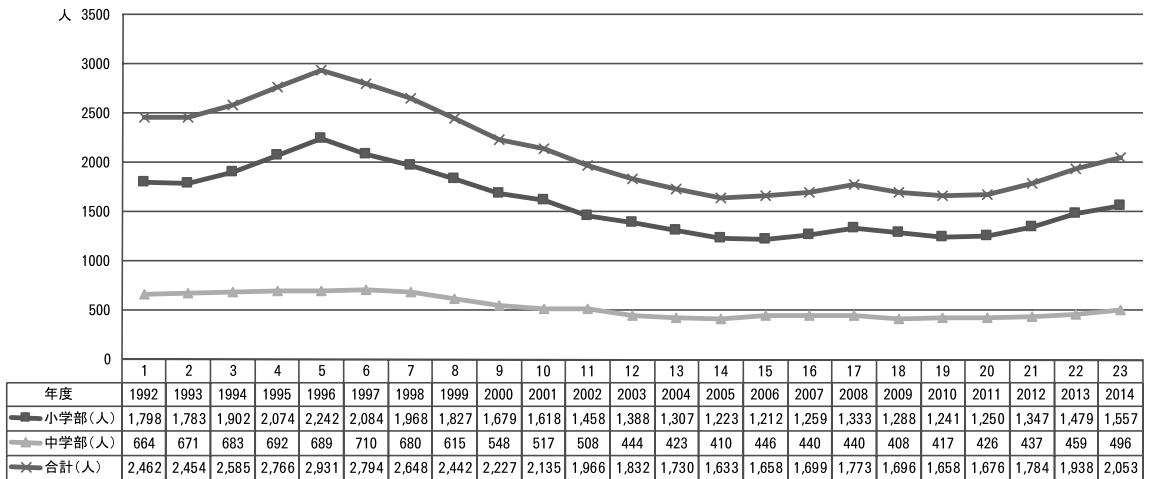


図1. シンガポール日本人学校23年間の児童・生徒数推移(毎年4月初め調べ)

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、29ページより作成

これら、シンガポール日本人学校の運営、管理は、シンガポール日本人会によって、「日本人学校登録管財人会」⁶⁾、そして同管財人会が設置する「学校運営理事会」を通じて行われている⁷⁾。「学校運営理事会」は、学校運営理事会規則第4条及び第6条により、①在シンガポール日本国大使館を代表する者、②日本人会を代表する者、③小・中学部及び学校事務局を代表する者、④日本人学校協同組合を代表する者、で構成されており、学校運営理事会規則第3条により、学校運営の基本方針の策定、教職員の人事、財産の取得審議、年次予算の編成、その他学校運営上の重要事項の審議決定を行うことになっている。

6) 日本人学校の法律上の所有者である。管財人会は10名以上で構成され、管財人のメンバーは日本人会の総会で任命される。シンガポール日本人会 HP。

7) 日本人会会則第3条、第27条、第28条、日本人学校登録管財人規程日本人学校定款4条等。

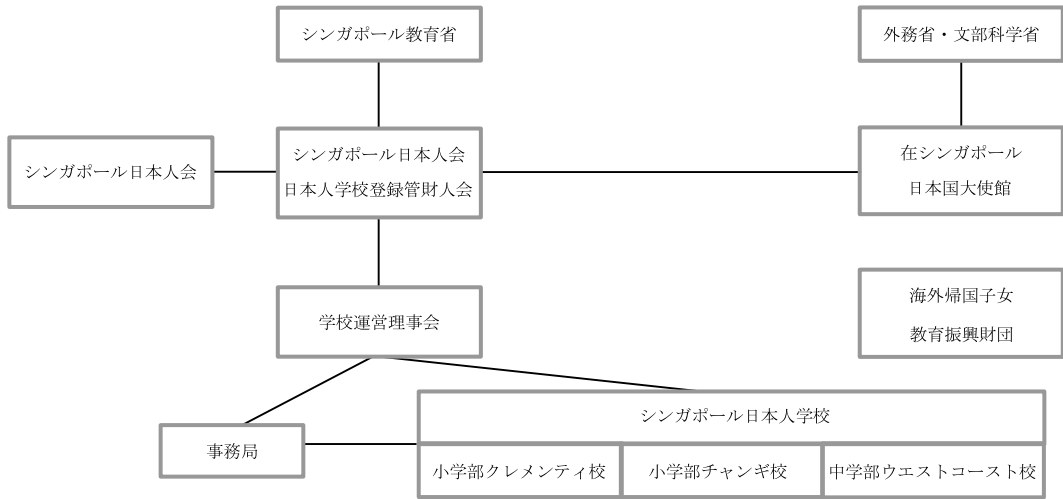


図 2. シンガポール日本人学校組織図

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、4ページより作成

2. シンガポール日本人学校の設置目的と学校の経営

シンガポール日本人学校は、「シンガポールに於いて、日本の教育原理と方法に基づく初等、中等教育を日本の文部科学省の定める学習指導要領に則って、日本語による教育を行うこと」（学校要覧 b、2015）を設置目的としている。さらに、学校規則第5条により、この学校は「日本の教育関係法規の精神に則り、児童・生徒の知的、身体的、道徳的な発達と人格の完成を目指すと共に、世界の平和と国際理解、親善の為の正しい認識と資質を培う為に、適切な初等（小学校）、中等（中学校）普通教育を実施する」と教育の目的を定めている。

これらの教育目的の下、以下の5つを「学校経営の基盤」（学校要覧 c、2015）としてあげている。

- (1) 本校は、シンガポール日本人学校の教育目的に沿って教育を行う。
- (2) 本校は、日本国の諸法規に基づくとともに、シンガポール共和国の諸法規を尊重して教育を行う。
- (3) 本校は、時代の要請に応える教育を行う。
- (4) 本校は、地域の実態に即して教育を行う。
- (5) 本校は、児童・生徒の実態に立脚して教育を行う。

また、学校経営をするにあたり必要である「校舎や施設設備の維持・管理等」（学校要覧 d、2015）に関しては、日本国政府補助金と受益者負担原則の考えに基づき、日本人社会の企業寄附金、及び個人寄附金ならびに保護者からの入学金・授業料・施設費等の校納金によりまかなわれている。

3. シンガポール日本人学校の歴史

1) I 期（開校～終戦に伴う閉校迄）

シンガポール日本人学校の歴史を辿ると、その歴史は100年前に遡り、歴史は古い。学校要覧(2015e)によると、1912(大正元)年11月邦人有志によってミドルロード131に、教員1名、児童28名で日本小学校が開校した。その4年後、1915(大正4)年9月、1,700名の在星会員により日本人会が発足し、1916(大正5)年10月に、日本人会に日本小学校の経営が委ねられた。1918(大正7)年7月には、日本政府より在外子弟学校法の指定を受け国庫補助金受給が許可された。

昭和に入り、1933(昭和8)年3月に創立20周年記念式典が行われる。その際の在籍者は教員16名、児童380名であり、開校時よりおよそ20年間で、13倍強に児童数が増えている。また、この間1920(大正9)年9月に新校舎をウォーターロー St.155 番地に新築しており、その後増築も行われた。しかしながら、1941(昭和16)年12月には、第2次世界大戦開戦の為閉校となった。その際、教員5名、児童数名は英軍に抑留されている。閉校となったものの、翌1942(昭和17)年8月には、日本軍の占領下の元シンガポールは昭南島と呼ばれ、昭南特別市第一国民学校として再開された。しかし、その3年後1945(昭和20)年8月に、終戦により34年の校史を閉じた。また、終戦に伴い在留邦人は連合軍に抑留された。

2) II 期（戦後日本語補習学校開設～クレメンティ時代）

戦後、シンガポール日本人学校は日本人会によってブキティマロード135番地に、1965(昭和40)年2月に日本語補習学校として開設された。その翌年1966(昭和41)年9月には、所在をダルベイエステートに移し、1968(昭和43)年3月迄の約3年間この地で教育が行われた。1966(昭和41)年9月3日の開校式では、教員3名、在籍児童27名の3学級でスタートしている。そして同年12月には、シンガポール政府より私立学校として正式認可がおりている。また、翌年1967(昭和42)年3月には第1回卒業式が挙行され、2名の児童が卒業をした。

その後、1968(昭和43)年4月にスイスコテージに新校舎を移転し、児童数72名の4学級で運営を行っている。また、同年7月には、中学部に該当する生徒を対象に補習授業を開始している。年をまたぎ翌年1969(昭和44)年1月には、中学校設立準備委員会を発足させた。なお、中学校に関しては、1970(昭和45)年4月に開校となる。開校時の中学部の生徒数は16名である。1972(昭和47)年1月に中学部第1回卒業式が挙行されるが、この時の卒業生は5名であった。

1971(昭和46)年に入ると、同年8月日本人学校はウエストコーストロードに移転される。しかしながら、このウエストコーストでの時代も1976(昭和51)年3月迄と約5年間で終わる。これらは全て、今日へとつながってくるクレメンティ時代への礎でもあった。移転後、およそ2年目の1973(昭和48)年7月には、日本人墓地2エーカーをシンガポール政府に返還し、その代わりに校舎用地として、クレメンティに代替地を租借している。そして、1975(昭和50)年3月にはクレメンティ新校舎地鎮祭を行い、翌年1976(昭和51)年3月にクレメンティロードに新校舎が完成した。

クレメンティに新校舎が開校した際、当時の児童生徒数は715名で24学級であった。クレメンティ

での1学校時代は、1976（昭和51）年4月～1984（昭和59）年3月迄の8年間続くわけであるが、この間1983（昭和58）年1月にはウエストコーストロードに新中学部校舎建設工事に着工しており、この後の小・中学部2校体制時代へと続いていった（学校要覧、2015f）。

3) Ⅲ期（小・中学部分離校舎発足～現在の3校体制時代）

1984（昭和59）年4月ウエストコーストロードに新中学部が開校され、シンガポールにおける日本人学校の体制も、クレメンティロードにある小学部とウエストコーストロードの中学部と2校体制になる。この時の児童生徒数は2,026名であり、学級数も52学級にまで増加している。また、学校規模の拡大に伴い、1986（昭和61）年4月学校運営委員会を改組し、3-1.シンガポール日本人学校の現状と運営で述べた現在の運営理事会を発足させ、その際に学校諸規定の改訂並びに学校組織の改正を行い、小学部・中学部・事務局の体制になった。同時に校長も小学部・中学部各々に配置がなされた。この体制は、1995（平成7）年3月迄続いている。この間、1993（平成5）年4月にはチャンギ第2日本人学校地鎮祭が行われ、1995（平成7）年3月にチャンギ新校舎が完工した。

チャンギ新校舎が完工した後、1995（平成7）年4月から小学部は2校体制へとなる。当時は、小学1年生から4年生までをクレメンティ校で、高学年の5年生と6年生をチャンギ校でという体制であった。この体制は、1998（平成10）年3月迄続き、この間、1996（平成8）年9月からは、毎月第2土曜日を休校とする週5日制の部分実施の開始や、1997（平成9）年12月から1998（平成10）年3月の間、チャンギ校の増築工事などが行われた。

小学部低・中学年はクレメンティ校、高学年はチャンギ校という小学部2校体制も、1998（平成



図3. 現在の小学部クレメンティ校の様子

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、53ページより
他一部、2015（平成27）年6月8日現地にて撮影

10) 年3月迄に解消され、翌月4月からは、小学部クレメンティ校、小学部チャンギ校、中学部ウエストコースト校の3校体制が確立され、現在に至っている(学校要覧g、2015)。

4. 小学部クレメンティ校における教育と身体活動

1. 小学部クレメンティ校における教育制度と教職員体制

シンガポール日本人学校は、シンガポール日本人学校規則第10条により、「学年は、毎年4月1日に始まり、3月31日に終わる」と定めている。これを基に第11条学期が定められ、日本国内の小学校同様3学期制がとられている。第1学期は、4月1日から7月31日。第2学期は8月1日から12月31日。第3学期は1月1日から3月31日迄である。また、休業日として、授業を行わない日を第12条(休業日)で、次のように定めている。

1. 日曜日・土曜日
2. シンガポール共和国の祝祭日
3. 日本国の祝日のうち、憲法記念日、みどりの日、こどもの日、天皇誕生日
4. 学年末及び学年始休業日：3月18日から4月11日迄
5. 夏季休業日：8月1日から8月31日迄
6. 冬季休業日：12月24日から1月6日迄
7. 特別の理由により校長が必要と認める日

「学校要覧 h、2015」

またこれらを統合すると、以下のような学期・休業日になる^{8)、9)}。

表3. シンガポール日本人学校授業日数

学校名	学年/学期	1学期(日)	2学期(日)	3学期(日)	計(日)
小学部クレメンティ校	1~3年	73	79	47	199
	4~5年	73	79	48	200
	6年	74	79	45	198
小学部チャンギ校	1~4年	73	79	47	199
	5年	73	79	48	200
	6年	74	79	45	198
中学部ウエストコースト校	1年	73	79	48	200
	2年	74	79	48	201
	3年	74	79	40	193

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、28ページより

8) 日曜日と祝祭日が重なる場合は、翌日を振替休業日としている。

9) *印は暦により毎年変わる。

表 4. 長期休業日及び祝祭日

長期休業日、祝祭日／期間及び期日	
学年始休業日	4月1日～4月13日
Good Friday*	4月3日
Labour Day	5月1日
憲法記念日	5月3日
みどりの日	5月4日
こどもの日	5月5日
Vesak Day*	6月1日
Hari Raya Puasa*	7月17日
夏季休業日	8月1日～8月31日
National Day	8月9日
Hari Raya Haji*	9月24日
Deepavali*	11月10日
天皇誕生日	12月23日
冬季休業日	12月24日～1月6日
Christmas Day	12月25日
New Year's Day	1月1日
Chinese New Year*	2月8日
Chinese New Year*	2月9日
学年末休業日	3月17日～3月31日

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、28ページより作成

日本国内において北国・南国の地域差は若干あるが、ほぼ国内と同様の教育環境である。

このような年間授業日数の中、小学部クレメンティ校では、59名の教育スタッフにより学校運営がなされている（学校要覧 i、2015）。以下、表 5 に教育スタッフの内訳を示す。

この他にも、給食調理員や通学バスの現地スタッフが多数雇用されており、その数は教育スタッフに匹敵する数である。現地スタッフの雇用や位置づけについては、シンガポール国内の雇用制度も関係しているようで、今後の研究課題の1つである。

2. 小学部クレメンティ校における教育活動

小学部クレメンティ校では、2015（平成 27）年度次の 5 つの教育の柱を中心に教育活動が進められている。

1. 「生きる力」を育むための基礎基本の徹底
2. 英語教育の重視
3. 国際理解教育と現地校交流の推進

表5. 小学部クレメンティ校における教職員体制

	役職及び担当	人数(名)
日本人スタッフ	校長	1名
	教頭	1名
	教務主任	1名
	研修担当兼理科5年生	1名
	1年生担当 1組~5組	各1人ずつ 計5名
	2年生担当 1組~5組	各1人ずつ 計5名
	3年生担当 1組~5組	各1人ずつ 計5名
	4年生担当 1組~4組	各1人ずつ 計4名
	5年生担当 1組~5組	各1人ずつ 計5名
	6年生担当 1組~4組	各1人ずつ 計4名
	音楽専科1・2・5・6年担当教諭	1名
	音楽専科3・4年担当と理科専科3年を兼任で担当教諭	1名
	理科専科4・6年担当教諭	1名
	英会話主任兼外国語活動・英会話・英文法専科担当教諭	1名
	英文法担当教諭	1名
	学習指導補助	1名
	学校図書館司書	1名
養護教諭	1名	
学校事務	1名	
外国人(現地)スタッフ	英会話主任	1名
	英会話担当教諭	12名
	イマージョン音楽担当教諭	2名
	イマージョン水泳担当教諭	3名

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、31ページより作成

4. ICT教育の充実

5. 家庭・地域との連携

「学校要覧j、2015」

1. については、さらに3つの項目に分けられており、1つは、児童一人ひとりの学習意欲の向上と学力の向上を掲げ、その取り組みとして、教育活動全体を通し、課題解決的な学習を展開し、児童の学習意欲の向上や学習習慣の確立を図るとしている。また、子どもたちが「分かった」「楽しかった」と感じるような授業づくりや、朝の時間を用いた全校一斉読書・学習時間を実施し、読書への関心を高める取り組みを行っている。さらに、学力テスト実施後、児童の実態把握を行い、授業改善を行うことを具体的な活動としてあげている。2つ目は、豊かな心の育成として、全教育活動を通して、

国籍・人種・宗教等の違いを尊重した、人権尊重の精神を基礎とする教育の充実や、児童会中心の自主的な活動、異学年での活動の重視など、子どもたち同士のつながりを深めていくことを大切にしている。また、あいさつや日々のコミュニケーションを大切にすることも重視している。3つ目は、健康・体力づくりの推進と基本的な生活習慣の形成である。具体的には、進んで健康の維持と日常的な体力づくりに励む児童の育成や、毎月生活目標を定め、生活習慣の定着を図ることを具体的な取り組みとしている。しかしながら、これらについては、今回のインタビュー調査では、教育活動内における体力・運動能力向上の可能性、特に泳力に関して、高い値が得られるのではないかと期待は得られたが、他の運動能力、ひいては体力向上に関しては、日常的な課題を抱えているのではないかと疑念を抱くこととなった。その背景として、シンガポール特有の気候・気温などの環境や、シンガポールを取り巻く近隣諸国での環境問題、子どもたちが置かれている生活環境や通学方法等が挙げられるのではないかと考えられた。この疑念については、次章で述べていきたい。

2. については、さらに2つの項目に分けられており、1つは、英会話教育の充実を掲げ、その取り組みとして、児童が興味をもち楽しく学べるようにするため、授業時にアクティビティを効果的に位置づけし工夫している。また、フォニックスや英文法の学習を取り入れ、基本的な表現を使いながらコミュニケーション活動ができるよう取り組んでいる。1つは、イマージョン教育への取り組みを掲げており、イマージョン音楽を1~4年生で年間30時間程度、5・6年生で年間10時間程度実施するとしている。また、イマージョン水泳を全学年で週1時間程度実施し、英語教育の充実を図っている。イマージョン水泳については、クレメンティ校における体育活動の特色ある教育であると考えられるので、さらに次節で検討を加えていく。

3. については、さらに3つの項目に分けられており、1つは、学校交流を通じた国際感覚の養成。2つ目は、シンガポールと日本の歴史から、先人の苦労や努力を学びつつ、シンガポールという国を通して、異なった文化的背景を持つ人々の共生を図る態度や能力の育成。3つ目は、校外学習や社会見学を通しての異文化体験を実施し、異文化に暮らす人々の生活や価値観を理解する取り組みを掲げている。

4. については、さらに3つの項目に分けられており、1つは、情報収集・処理・活用に関するコンピューターの操作法の習得と情報モラルの育成への取り組み。2つ目は、教科の学習と連携したコンピューターの活用。3つ目は、学校ホームページの充実を図り、情報発信・交流に積極的に取り組むこととしている。

5. についてもさらに3つの項目に分けられており、1つは、PTAの諸活動、保護者や日本人会のボランティア等と連携し、ゲストティーチャーやフィールドワーク等で授業の充実を図る取り組み。2つ目は、日本人会などと連携を図り、各種行事への積極的な参加をはたらきかけ、豊かな経験を持った社会性のある児童の育成を図る取り組み。3つ目は、学校協同組合との連携を図り、登下校における児童の安全を図る取り組みを行っている。

そして、これらの具体的な取り組みを達成させるために、以下のような年間授業時数、年間行事予定¹⁰⁾、日課表・週時程で教育活動が行われている。これらは日本国内の小学校と比較しても、大差はないところである。

10) 巻末資料 a として添付

表 6. 2015 (平成 27) 年度 各学年教科別年間授業時数

(年間 35 週)

学 年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
教科等	国語	306	315	245	245	175	175
	社会	—	—	70	90	100	105
	算数	136	175	175	175	175	175
	理科	—	—	90	105	105	105
	生活	102	105	—	—	—	—
	音楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家庭	—	—	—	—	60	55
	体育	102	105	105	105	90	90
	道徳	34	35	35	35	35	35
	特別活動	34	35	35	35	35	35
	総合的な学習	—	—	35	35	35	35
	外国語活動	—	—	—	—	35	35
	英会話	115	115	115	115	105	105
総授業数 (時間)		965	1025	1025	1060	1050	1050

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、20 ページより

	月	火	水	木	金
8 : 1 5	朝の読書	朝学習 (計算)	全校朝会 児童朝会 (朝の読書)	朝学習 (漢字)	1-2年 朝の読書 3-6年 朝学習
8 : 3 0	朝の会		8:35まで	朝の会	
8 : 4 0	1	6	12	18	24
9 : 2 5	休憩・移動				
9 : 3 5	2	7	13	19	25
1 0 : 2 0	中休み				
1 0 : 4 0	3	8	14	20	26
1 1 : 2 5	休憩・移動				
1 1 : 3 5	4	9	15	21	27
1 2 : 2 0	昼食				
1 2 : 4 5	昼休み				
1 3 : 2 5	移動				
1 3 : 3 0	5	10	16	22	28
1 4 : 1 5	清掃時間	休憩・移動			
1 4 : 2 5	14:30 帰りの会	11	17	23	29
1 5 : 1 0	▼全15:00 15:15~15:25 打ち合わせ	帰りの会 ▼全15:45	帰りの会 ▼全15:45	帰りの会 ▼全15:45	15:30 帰りの会 ▼4・5・6年 全15:45
				16:00~16:10 打ち合わせ	

図 4. 2015 (平成 27) 年度小学部クレメンティ校日課表・週時程

出所：シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、27 ページより

3. イマージョン水泳の取り組みについて

前項の小学部クレメンティ校における教育活動でも述べたが、クレメンティ校においては、イマージョン水泳を取り入れ、全ての学年において週1時間程度実施している。

Immersion（以下、イマージョン）とは、「浸水」を意味する言葉で、Language Immersion 教育として、1960年代にカナダの小中等教育で始まった言語教育の一種であり、一般教科を外国語で学ぶ教育法である（藤井他、2014）。また、長尾（2004）は、『「イマージョン（immersion）」とは、「完全に覆うように液体に深く漬ける」と定義された動詞 immerse の名詞形である。つまり、母国語とは異なる言語に生徒を浸す教育を行うものである。言語教育を行うというよりも、一般の科目の授業を母国語と異なる言語で行うことにより、自然にその言語が身につくようになる。教育の目的というより、教育手段としての言語習得を目指す』としている。クレメンティ校では、この手法を用い、英語教育を重視するために、週1時間の水泳の時間を、日本語による指導ではなく、英語を用い学習指導を行っているのである。

クレメンティ校におけるイマージョン水泳は、日本人教諭、つまり担任の教諭ではなく、現地で採用された現地スタッフが指導を行っている。4-1.でも示したが、現在クレメンティ校では、3名のイマージョン水泳担当者がおり、この3名がチームを組み、内1名がその授業を進行していく上でのリーダーになり、他の2名がサポートする体制になっている。また、その間クラス担任は、プールサイドで見学児童の対応と、現地スタッフにより進められる授業を観察し、体調不良者の発見や事故防止等、プール監視業務を行っていた。したがって、イマージョン水泳の授業自体は、現地人スタッフ（シンガポーリアン）によって運営されており、45分全てが英語により行われていた。授業の一連の流れを示すと概ね以下のとおりである。

まず、現地スタッフ教諭と児童の授業開始の挨拶に始まり、3名程度の児童が前に出て、準備体操を行う。この時の児童の指示や体操の掛け声も全て英語である。例をあげるならば、体操のカウントとして数える数字も、日本国内であれば、1、2、3・・・（イチ、ニー、サン・・・）であるが、クレメンティ校では、1、2、3・・・（ワン、ツー、スリー・・・）でカウントしながら、準備体操が進められる。準備体操の後は、シャワーを浴びて入水である。この間、現地スタッフの指示がなされる。入水後は、現地スタッフの指導者の指示に従って25mを泳ぎ始める。全員が1度25mの端について後、折り返して25mを泳ぎ始め、全員が泳ぎ切ったところで、指導者が英語で、腕のかき方を指導していた。その際、英語の指示とともに腕を動かし師範も行っていた。一通り説明が終わり、指導者が児童に分かりましたか？と英語で尋ねていたが、子どもたちは大きな声で、分かったと応えていたので、子どもたちもしっかり理解できているようであった。その後も、泳法を変えながら、50メートル泳ぐごとに指示や泳ぎに対する解説が入ったり、ビート版を用い、腕のかき方や足の使い方を指導者の英語の指導の下行ったりしながら授業は進んでいた。授業の最後は、指導者の今日の気づきと次週への目標設定で終わった。

この間、見学児童もプールサイドで、担任が用意したワークシートに、見学しながら聞こえてきた現地スタッフ指導者の言葉を英語で記録していたり、友だちの泳ぎについて気づいたことを英語で記

述したりしていた。現地スタッフの指導者以外の2名は、ある程度の間隔をとり、児童の泳ぎを見ながら、気になる児童には個別指導をするという対応を行っていた。その際も英語でなおかつ大きな身振り・手振りを入れ師範を行っていた。

文科省(2009)によると、2011(平成23)年度より小学校において新学習指導要領が全面実施され、第5・第6学年で年間35単位時間の「外国語活動」が必修化され実施されている。現状、「外国語活動の指導内容や活動については、児童の興味・関心にあったものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること」となっているが、イメージョン水泳を視察すると、体育の分野も外国語活動との連携を行うには最適なのではないかと考えずにはいられない。それはやはり言葉だけではなく、大きな身振りや手ぶりを伴った師範がされて、それが子どもたちに理解されるに他ならないからである。

イメージョン水泳は、週1時間程度実施であるが、図4の2015(平成27)年度日課表・週時程から明らかなように、週時程の中に水泳の時間は見当たらない。つまり、体育の時間を活用して、水泳の学習時間確保となってくる。これを年間35週として、正規の体育の時間に占めるイメージョン水泳の割合を表7に示した。これを見ると、どの学年でも体育の時間に占めるイメージョン水泳の割合が、年間授業時間数の3割を超え、体育の授業時間数自体が減少してくる高学年では、39%とおおよそ4割に迫っていることが分かる。これは、イメージョンの本来の目的である英語に浸り、英語学習の体得を目指すだけではなく、水泳における泳力の獲得にも大いに貢献しているものと思われる。6月の授業視察では、1年生のイメージョン水泳の様子を視察したが、入学してきて2か月しか経たない20名程度の児童が、25mを途中足をつかずに泳ぎ、自由形(クロール)、平泳ぎときれいなフォームで、なおかつ適度なスピードで泳いでいたのが観察できた。K教頭先生へのインタビューでも、「日本国内の児童に比べると、年間を通して泳いでいる量が違うので、泳力もあり、どの児童もかなり泳げる」と語っておられた。現状、クレメンティ校の児童らが、日本国内の児童らと比較して、どのくらい泳力が違うのかという客観的な数値を示す統計は存在しなかったため、今後の研究課題の1つとしていきたい。

また、これまでイメージョン教育に関する研究として、藤井ら(2014)や星原(2013)、佐藤(2014)、田中ら(2015)、栗原(2014)の研究があるものの海外教育施設における体育活動と関連あるものは見当たらない。藤井(2014)は、野外活動(キャンプ)にイメージョン教育法を用い、大学生を対象に2泊3日のキャンプ活動の全てを英語で行い、キャンプ後アンケート調査を実施している。しかし、プログラムが日本人学生25名だけのプログラムであったため、日本語になってしまう場面があったり、

表7. 2015(平成27)年度体育年間授業時数に占めるイメージョン水泳の割合

	(年間35週)					
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
体育(時間)	102	105	105	105	90	90
イメージョン水泳(時間)	35	35	35	35	35	35
割合(%)	34.3	33.3	33.3	33.3	38.9	38.9

出所:シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、20ページより作成

恥ずかしさがあったりという結果に終わってしまっており、イメージョンの効果について疑念が残る。星原（2013）は、英語教室に通っている小学生約 80 名を対象に、シュノーケリングによる野外体験活動と英語教育を融合したイメージョン教育を行い、水圏環境教育の可能性について検証を行っている。結果、英語に興味がある子どもたちが海に興味を持ってくれたと結論づけ、英語教育など、子どもたちに人気のある教科を利用して環境教育を広めることが可能だと示唆している。しかしながら、プログラム時間 80 分間のうち 40 分間を説明や話の時間、40 分間を水中観察の時間とし、その間すべての活動中、英語による説明を行っているが、重複して日本語にて説明も行ったとしているので、果たしてイメージョン教育の定義に沿っているのか疑念の残るところである。佐藤（2014）は、イメージョン教育の現状と課題というテーマで、アイルランドと日本のイメージョン教育の事例をあげて議論している。アイルランドでは、「1973 年に Gaelscoil（ゲール語の学校）というアイルランド語に特化した学校が開設された。そして、現在（2014 年）では、全国の小学校で 172 校、中学校で 39 校、これらの学校でアイルランド語でのイメージョン教育が実施されている」と述べている。また、日本の事例については、日本でイメージョン教育を実施している教育機関を 2 つ取り上げ紹介している。1 つは静岡県沼津市にある 1983（昭和 58）年創立の加藤学園暁秀高等学校・中学校と、もう 1 つは、群馬県太田市にあるぐんま国際アカデミーである。田中ら（2015）は、イメージョン教育を受ける児童のバイリンガリズムとその規定要因というテーマで、児童のみに調査の対象を当てるのではなく、児童を取り巻く周辺環境、とりわけその保護者にも焦点を当て研究を行っている。しかしながら、研究主体はイメージョン教育ではなく、バイリンガリズムに置かれている。栗原（2014）は、オランダの小学校での英語教育の特徴とその意味づけについてテーマを設定し、その中でイメージョン教育についても触れている。そこでは、『こう考えると、（描く、作る）などの活動を中心とする「創造的芸術」の授業で動作や作業に関する指示や表現を英語で学ぶのは、自然な活動や行為の中で言葉を獲得していく可能性の高い子どもたちにとって、最適といえよう』と、日本の授業科目でいうところの図工のイメージョン教育における有効性を述べている。

しかしながら、これらの研究からみても、児童を中心とした、そして教科体育に関連するイメージョン教育は見当たらない。したがって、クレメンティ校におけるイメージョン水泳についての研究は、子どもたちの外国語活動に新たな知見をもたらすことができると考える。ついては、イメージョン水泳に対する子どもたちの語学能力養成の効果と、イメージョン水泳が与える身体活動についての有効性について今後研究を深めることができればと考える

5. シンガポールにおける子どもの運動・遊びと生活環境

1. 体育活動及び遊びに伴う問題と子どもの生活

第 1 回目の調査の際、K 教頭先生にインタビューを行い、シンガポール日本人学校クレメンティ校における身体活動に関連する現状と課題について伺った。その点について論究したい。インタビュー¹¹⁾の中から、クレメンティ校では、次の 3 つの課題が明らかになった。1 つ目は体育活動に伴

う騒音問題、2つ目は他校（現地校）との交流活動がないこと、3つ目は放課後の遊び時間がないという現状と課題であった。

1つ目の体育活動に伴う騒音問題については、野外のグラウンドで体育活動を行う場合、その際発生する指導者の声や子どもの声、また授業の際に使用する音楽や体育用具の音に関しての近隣住民からの苦情である。シンガポールは国土が狭く、土地が限られているため、庭付きの1戸建て購入の場合、1億円以上の費用を要する。そこで多くの現地人はコンドミニアムと呼ばれる高層の住宅に住んでいる。クレメンティ校はシンガポールの中心市街地から西へ15km程離れているが、学校の周囲、特にグラウンドの周りは、高層のコンドミニアムが数棟建っている。よって、そこに住む住民からの、体育活動に伴う音に対する苦情が入るとのことであった。例年9月の中旬以降にスポーツデイ（運動会）が、日本と同じような形式（運動会の内容）で実施されている。9月に入ってから、スポーツデイ本番に向けての練習もグラウンドで行われるわけであるが、練習に入る前に、近隣コンドミニアムの住民には1戸1戸スポーツデイ実施への案内と練習に伴う音や声に対する理解を求める文書を配布し、スポーツデイ開催とその練習への理解と協力を求める対策を行っているということであった。特にスポーツデイ当日は、在籍児童だけでも800名程度おり、そこに児童の保護者、そして日本からも祖父母や親戚が応援にかけつけられるということで、約6000名近くの人が集まり開催されている。また、シンガポールでは運動会（スポーツデイ）という概念や行事がなく、運動会が理解され難い状況がある。よって、教育活動であったとしても、騒音として現地の人々から捉えられるのは致し方ないのであろう。

2つ目は、他校との交流活動がないということであった。これは、体育活動だけではなく、他教科での活動しかり、また遊びやスポーツも含めて、学校行事としても他校との交流活動はないということであった。他校は、現地の小学校であったり、国際校（インターナショナルスクール）であったりする。これに関しては、先行研究でも指摘されている。例えば、土肥（2012）は、現地校との「交流



図5. クレメンティ小学校に隣接するコンドミニアム群

出所：2015（平成27）年9月19日現地にて撮影

活動に対する意識の低さ」について、元シンガポール日本人学校教員の報告を引用して、以下のよう
に5つにまとめ述べている。1つに「巨大日本人社会の存在」、2つに「シンガポール仮住まい意識」、
3つに「子どもの教育問題」、4つに「日本人の国民性」、5つに「日本人の優越意識」である。また、
田村 (2008) は、シンガポールの日本人は、日本人家族が多いコンドミニウム (マンション) に住み、
子どもを日本人学校へ入れ、日本にいた時とほとんど同じ生活スタイルの多数派と、英語や中国語を
操り、子どもを国際校に入れ、非日本人の友人を多く持つ少数派に分かれると記しており、学校内外
問わず現地人との交流は少ないようである。また、今回の調査で、4月新しい学年が始まった時に1
クラスに30名程度いた児童が、学年末にはその3分の2が入れ替わっている状況も確認できた。他
校との交流や学外行事を優先させるのではなく、学内での交流を優先させ、子どもたちの人間関係に
も気を配り、通常の授業を日々展開されている先生方の姿勢が明らかになった。

3つ目は子どもたちの放課後の遊び時間がないという現状である。図4から明らかなように、朝は
午前8:15までに登校し、8:15からは朝の活動が始まる。また、午後は、月曜日のみ15:00である
が、火曜日から金曜日は15:45には完全下校という形を取っている。学校要覧 (2015k) によると、
火曜日から金曜日は、第6校時が15:10まで行われ、その後完全下校の時間まで30分しか時間が確
保されていない。その間、子どもたちは帰りの会を行っていると、余裕ある時間はなく、放課後学校
に残るということは不可能である。また、クレメンティ校の児童はシンガポール全土から通学してお
り、バス通学が主である。学校要覧 (2015l) によると、遠方から通学する児童は、1時間程度のバス
乗車になっている。したがって、完全下校の時間は全てのバスが発車する時間でもあるのだ。よって、
日本国内のように、放課後友だちと遊んで過ごすという時間はない。もちろん各自が遠方なので、一
旦自宅に戻った後、遊びに行けるということでもない。

では、学校が終わった後、自宅に戻った子どもたちは何をして過ごしているのであろうか。K教
頭先生へのインタビュー調査では、「主たる児童はコンドミニウムへ帰った後、部屋の中で過ごすか、
もしくは各コンドミニウム内にプールが併設されているので、そこでプール活動をして過ごす」とい
うことであった。その背景として、年間平均気温がおよそ27℃あり、日中の気温30度を超える日が
多いシンガポールでは、外遊びは熱中症等の危険性もあり非常に厳しいということが言える。また、
治安の面からも外遊びより、セキュリティがしっかりしているコンドミニウム内での室内遊びか、同
じく敷地内に併設されたプールで遊んで過ごすということが最善であろう。これらの点について越井
(1988) は「便利さと安全面を考慮して、登下校はすべて集団でのバス通学である。放課後、学校に
残ってクラブ活動をしたり、遊んだりという余裕がほとんどない。普段の生活は、学校から帰宅して
昼寝、夕方頃から室内で遊ぶか、近くの日本人の友人と団地の中庭で遊ぶ程度で、ほとんど外出なし
で過ごすことが多い。住居は安全性への配慮もあり大多数の日本人は、管理人が24時間ガードする
中高層住宅団地に住む。ここで暮らすには、少なくとも3種のカギが必要とされる。即ち、駐車場の
カギ、建物に入るカギ、自宅のカギの3種である。従って、中高層住宅に囲まれた庭は、安全な遊び
といこい場であり、プール、その他の遊具も備えられ、管理人がいて、安心して子供を出しておけ
る空間でもある」と、およそ30年前の論文でも触れ、約30年経った現在においてもその状況はあま
り変わらないようである。

今後、クレメンティ校における子どもたちの身体・運動能力や健康状態の実態解明をするためにも、室内遊びでもどのような遊びや活動をしているのか等、児童の日常の遊びについて質問紙調査等とおして、明らかにすることができればと考える。

2. 子どもたちの身体活動を制限する Haze

シンガポール特有の気候や、外国における生活でもありセキュリティ面からの制限がかかる子どもたちの外遊びであるが、現在、別の面からも制限がかかり子どもたちの運動や遊び、体育活動など、身体活動に影響を与えている。その問題が「Haze (ヘイズ/煙害)」である。

外務省 (2015b) によると、ヘイズ (煙害) は、インドネシア・スマトラ島などにおける大規模な野焼きや森林火災により生じた煙が、南西季節風 (モンスーン) により、マレー半島やシンガポールに流されることにより生じる煙害を指し、例年、乾季に当たる5月~10月に観測がなされる。川原ら (2015) によると、「東南アジアにおいて越境汚染問題は金融危機と並び非伝統的な外交問題 (領土問題などとは異なる) の一つである。特にインドネシアの森林火災を原因とするヘイズは10年以上にわたって被害が深刻化している。森林火災から排出されるヘイズに含まれる汚染物質には塵、一酸化炭素、メタン、窒素化合物、硫黄化合物などがあり、健康や環境への影響が現実に発生している。これら影響範囲は、インドネシアのみならず近隣国であるマレーシア、シンガポール、タイ、ブルネイ、フィリピンに及んでいる。毎年ヘイズによる大気悪化が深刻になる6月頃になると新聞やメディアを通じてインドネシアの周辺国政府などによるインドネシアに対する批判が繰り広げられる。インドネシア政府は大きな反論はしないものの、有効な対策は遅々として取られていないのが現状である」として、ヘイズの問題が非常に大きな問題であることを示唆している。また、日本経済新聞社 (2015) によると、ヘイズによる大気汚染がシンガポールで拡大していることを伝え、「航空便の欠航が相次いだほか、観光にも影響が出始めた」とし、次のような事例を紹介している。「インドネシアの国営航空会社、ガルーダ・インドネシア航空は9月3日~20日の間に煙害がある地域などへのフライト計449便を欠航した。マレーシアの格安航空会社 (LCC) エアアジアなど周辺国の航空会社も一部の便で航路を変更したり欠航したりした」『シンガポール中心部にある観光スポット、マーライオン周辺は白いもやがかかったようだ。マリーナ湾を挟んでそびえるホテル「マリーナベイ・サンズ」や金融街はシルエットしかみえない。フィリピンから家族と観光に訪れた女性 (59) は「空気が悪くてつらい。これ以上煙害がひどくなればホテルで過ごすしかない」と話し、マスク姿のまま記念写真を撮った。近くの船乗り場で観光船の従業員は「煙害が悪化してから客数が半分ほどに減った」とこぼす。観光地の中華料理店では屋外のテラス席を嫌がる客が増えた』と述べ、シンガポール政府が野焼きに関与する企業に対する制裁リストを発表したことを伝えている。

在シンガポール日本大使館 (2015) によると、ヘイズによる健康障害の度合い (濃度) をシンガポール国家環境庁 (NEA) が、PSI (Pollutant Standards Index) という数値を用いて発表しており、この数値は、人体に有害といわれる物質である二酸化硫黄やPM10、PM2.5等の6種類の物質の濃度を基に計算されていると伝える。PSIの数値については、図6に示したとおり100以下を一般的に健

康に影響はないとしており、数値が低ければ低いほどヘイズの影響はないとされる。逆に PSI の数値が 101 を超えてくると、屋外における激しい活動の自粛や、特に子どもや高齢者に対してはその注意喚起の指示が強くなされる。さらに心肺に関係する持病保持者に対しては、マスク着用が促されている。現況は、2015（平成 27）年 7 月 10 日に PSI が今年の最高値である 92 に一時上昇したものの、それ以降は、40～60 台に落ち着いているようである。しかしながら、例年は 5 月～10 月の南西季節風が吹く時期に PSI の高い数値が観測されており、一昨年（2013）は、6 月中旬に非常に高い PSI 濃度が測定されているようである。この時の数値が、シンガポール観測史上最高値の 401 であった。2014（平成 26）年は 9 月下旬に 150 程度の高い数値を観測している。

ヘイズによる健康障害の度合いを示した PSI の数値が低ければ、一般的に影響がないレベルではあるが、乾季の時期は注意が必要であると在シンガポール日本大使館は指摘する。それは、ヘイズ中に含まれ健康への影響が懸念される PM2.5 の問題である。在シンガポール日本大使館（2013）によると、PM2.5 の PM とは、Particulate Matter の略であり、大気中に浮遊する粒径 2.5 μ m 以下の微粒子物質であり、ヘイズ中にも含まれているとしている。この粒子が小さいほど呼吸器の奥深くまで入りやすいことから、継続的に吸収した場合長期の健康への影響が懸念されている。例えば、循環器疾患（狭心症など）や呼吸器疾患（喘息や肺気腫、慢性気管支炎など）の発症や悪化、並びに肺がん発症リスクの増加等である。これらの症状については、一般的な人の場合、長期的に継続して暴露した場合生じる症状であり、心肺に関係する持病を持つ人や、高齢者、子どもの場合、直接的に症状が悪化する場合もあるといわれている。また、短期の暴露によっても健康への影響はみられ、例えば、喉の痛みや目の充血やかゆみといった結膜炎症状、鼻水、くしゃみといった鼻炎症状、咳、においを原因とする気分の悪化、元来、循環器疾患（狭心症など）や呼吸器疾患（喘息や肺気腫、慢性気管支炎

PSI の数値	健康被害状況
50 以下	(良好: Good) 一般的に影響なし
100 以下	(適度: Moderate) 一般的に影響なし
101～200	(不健康: Unhealthy) 一般的な人は、継続的または激しい屋外活動を極力控えること。子供、高齢者は、継続的な屋外活動を極力控えること。心肺に関係する持病のある人は、屋外活動を極力避け、屋外活動が必要な場合は、マスクを着用すること。
201～300	(非常に不健康: Very Unhealthy) 一般的な人は、継続的または激しい屋外活動を極力避け、屋外活動が必要な場合は、マスクを着用すること。子供、高齢者、心肺に関係する持病のある人は、屋外活動を極力避け、屋外活動が必要な場合は、マスクを着用すること。
301 超	(危険: Hazardous) 一般的な人は、屋外活動を極力避け、屋外活動が必要な場合は、マスクを着用すること。子供、高齢者、心肺に関係する持病のある人は、屋外活動を極力避け、屋外活動が必要な場合は、マスクを着用すること。

図 6. PSI の数値と健康被害

出所：在シンガポール大使館『Haze（ヘイズ／煙害）発生に関する注意喚起』2015 年 7 月 20 日。

など)を持病としている人の症状の悪化等が起こる。

ヘイズの濃度指標である PSI と併せて、PM2.5 についてもシンガポール国家環境庁 (NEA) のホームページで1時間ごとに地区ごとの値が公表されている。2015年の現況として、PSI が危険とされる基準である 300 を超えた 6月19日～22日には、PM2.5の濃度も $250\sim 300\mu\text{m}^3$ と非常に高密度になったと、在シンガポール日本大使館は伝えている。また、風向きの影響でヘイズが落ち着き、PSIの値が一般的に影響がないとされる 100 以下になった後も、PM2.5の濃度は、 $40\sim 70\mu\text{m}^3$ 辺りで推移していたこともあったと伝え、注意を喚起している。また、在シンガポール日本大使館 (2013) は合わせて対策についても述べており、健康を確保する上で一番重要なことは、汚染物質の暴露をできる限り減らすことであるとしている。そのうえで、4つの対策をあげている。1つは、濃度の確認である。PM2.5は非常に小さな微粒子物質であるため、見た目では白く霧がかかった状態でも高い場合があるとし、自分の感覚だけで判断せずに、外出中でも必要に応じて携帯端末等を活用し、濃度を確認することを勧めている。2つ目はマスクの着用である。特に密封性の高い N95 マスク着用が有効であるとしているが、隙間があると、マスク着用の効果が低下するので、花粉症用のマスク等を隙間なく着用することでも、ある程度は暴露を低減できるとしている。3つ目に屋内での留意点とし、空気清浄機の活用を勧めている。また、シンガポールの家の造りは、日本と比べ密封性が低いので、隙間にガムテープを貼る等の工夫をして、出来る限り屋外からの進入を減らし、帰宅後は手洗い・うがいを徹底させることの有効性を説いている。4つ目は、不要不急の外出の回避である。PM2.5の濃度が高い場合は、屋外での活動(運動やピクニック等)を控えることを推奨し、通勤や通学においても、車や公共交通機関を使用し、屋外にいる時間をできる限り減らすことを勧めている。

このようにヘイズ、そしてそれに含まれる PM2.5 はシンガポール並びにその周辺国において非常に大きな社会問題であり、日常生活ひいては子どもたちの教育活動に影響を与えている。日本経済新聞社 (2015) によると、「シンガポールでは9月2週目から煙害が悪化し、大気汚染の度合いを示す公害水準指数 (PSI) が健康に (害あり) とされる 100 を超す日が増えた。同月 25 日には PSI が「危険」とされる 300 を超え、小中学校が休校に追い込まれた。10月1日も 200 に迫った。隣国のマレーシアでも同 15 日以降、クアラルンプール近郊などの学校が数日間休校になった」と伝えている。また、2015 (平成 27) 年 9 月 19 日に体育行事の視察を兼ねて、2 回目の現地調査にクレメンティ校を訪問した際も PSI の数値が高く体育行事は中止になった。M 校長先生曰く「PSI の数値が高く、年に数回休校にする年もある」ということであった。「現地に暮らす日本人家族の中には、幼児の健康への影響を考え、一時帰国するケースもある」(日本経済新聞社、2015) と、非常に深刻なヘイズの問題である。今後、シンガポールで暮らす子どもたちの遊びや体育活動の制限などに、どれだけ影響を及ぼしているのか、現地において調査を継続し、より詳細にその実態について明らかにしていければと考える。

6. 結語

本研究では、これまで研究がなされてこなかった在外教育施設における子どもたちの身体活動に焦点をあて、その手始めとして、歴史が古く、在籍児童も多いシンガポール日本人学校を研究の対象とし、その設立の歴史と小学部クレメンティ校で学ぶ子どもたちの身体活動の現状と課題について、明らかにしてきた。以下、次のことを明らかにできた。

1. 児童の英語教育重視の為にイマージョン水泳が取り入れられており、体育における年間授業時間数の3割程度をイマージョン水泳に充当していることが明らかになった。
2. 文化の違いから、体育活動・体育行事への理解が得られにくい部分もあり、現地住民から騒音問題等が寄せられていること。また、現地の人との交流活動がなく、体育・スポーツを軸に置いた現地での交流はなされていないことが明らかになった。
3. Haze 及び PM2.5 など、子どもたちの健康を害する切実な問題を抱えており、これらの問題が、子どもたちの体育活動や外遊びなどの身体活動を制限し、また阻害する要因になっていることが明らかになった。

今後、この研究を発展させ、イマージョン水泳の語学能力養成の効果とイマージョン水泳が体育活動に与える有効性、そして日本国内の外国語活動への体育の活用の提案。また、Haze や PM2.5 といった環境の中で、クレメンティ校の児童の日常の遊びや運動についてより詳細に明らかにしていくことができると考える。

文 献

- 土肥豊 (2012) シンガポールの日本人学校の現状と課題. 大阪総合保育大学紀要, 6: 195-217.
- 藤井清美・ブレントライト・ステファニーレイノルズ・グエンハン・ジャスティンウィットティングヒル・アンドリューガーガリー (2014) 英語イマージョンキャンプ:モチベーション向上をねらった留学疑似体験研修実践. 金沢工業大学工学教育研究, 21: 13-23.
- 外務省 (2015a) 海外在留邦人数調査統計平成 27 年要約版. 外務省領事局政策課. pp. 11.
- 外務省 (2015b) マレーシア及びシンガポール:ヘイズ(煙害)による大気汚染. 外務省海外安全ホームページ. 2015年9月28日.
- 星原貴保 (2013) イマージョン教育としての水圏環境教育—英語塾に通う児童に対するシュノーケル野外活動の教育効果—. 水圏環境教育研究誌, 6 (1): 7-11.
- 川原賢太・Ng Yoke Yan・Soon Chai Fen・Joshua Mutua・舎川春佳・上須道徳 (2015) 大阪大学 OUFU ブックレット, 6: 139-149.
- 越井郁朗 (1988) シンガポール日本人学校について. 大阪府立大学人間科学論集, 20: 25-41.
- 栗原浪絵 (2014) オランダの小学校における英語教育の特徴とその意味—フリースランド州における多言語教育—. 目白大学人文学研究, 10: 291-300.
- 文部科学省 (2009) 新学習指導要領.

- 森山卓郎・梅原大輔・森篤嗣・富永英夫・濱本秀樹・加藤久雄 (2009) 「外国語活動」に向けてータイにおける初等中等学校の英語教育が示唆するものー. 京都教育大学紀要, 115: 47-61.
- 村上由季・池崎喜美恵 (2013) 日本人学校小学部における家庭科教育の現状と課題. 東京学芸大学紀要総合教育科学系, 64: 183-192.
- 長尾素子 (2004) イマージョン教育におけるコミュニケーション能力の育成ー加藤暁秀中学校・高等学校の調査からー. 拓殖大学語学研究, 105: 31-59.
- 日本経済新聞社 (2015) 煙害で曇るビジネス. 10月2日朝刊.
- 小澤至賢 (2007) クアラルンプール日本人学校、シンガポール日本人学校チャンギ校及び中学部、バンコク日本人学校における特別支援教育の実情と教育相談支援. 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所世界の特殊教育, 21: 51-55.
- 佐藤郁 (2014) イマージョン教育の現状と課題ーアイルランドと日本の場合ー. 国際地域学研究, 17: 55-70.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 a) pp. 29.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 b) pp. 15.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 c) pp. 16.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 d) pp. 8.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 e) pp. 9.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 f) pp. 10.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 g) pp. 11.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 h) pp. 42.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 i) pp. 31.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 j) pp. 17.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 k) pp. 27.
- シンガポール日本人学校学校要覧 (2015 l) pp. 50.
- 田村慶子 (2008) シンガポールを知るための62章【第2版】. 明石書店.
- 田中佑美・久津木文 (2015) イマージョン教育を受ける児童のバイリンガリズムとその規定要員. 広島経済大学研究論集, 37 (4) : 113-125.
- 渡辺松一・福田正恒 (2004) アジア日本人学校視察訪問報告. お茶の水女子大学研究紀要, 33: 53-60.
- 結城正美 (2006) 英語イマージョンクラス (教養的言語科目) の現状と課題ー受講調査の結果からー. 金沢大学言語文化論叢, 10: 133-146.
- 在シンガポール日本大使館 (2013) Haze (ヘイズ) 中に含まれるPM2.5の対策について. 在シンガポール日本国大使館ホームページ.
- 在シンガポール日本大使館 (2015) Haze (ヘイズ/煙害) 発生に関する注意喚起. 在シンガポール日本国大使館ホームページ.

巻末資料 a

月	4月		5月		6月	
日数	1～5年：12日 6年：13日		18日		21日	
日	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	水	学年始休業（～13日）	金	Labour Day	月	Vesak Day
2	木		土		火	
3	金	Good Friday	日	憲法記念日	水	全校朝会 3年日本人墓地公園清掃
4	土		月	みどりの日	木	
5	日		火	こどもの日	金	
6	月		水	全校朝会 視力検査1・6年	土	
7	火		木	視力検査2・5年	日	
8	水		金	クラブ活動 視力検査3・4年	月	
9	木		土		火	
10	金		日		水	児童朝会
11	土		月	午前日課 個人懇談	木	5年野外活動(予定)
12	日		火	午前日課 個人懇談	金	5年野外活動(予定)
13	月		水	午前日課 個人懇談	土	
14	火	着任式・始業式	木	午前日課 個人懇談	日	
15	水	入学式	金		月	
16	木	1年特別日課 バス班会	土		火	
17	金		日		水	児童朝会
18	土		月		木	
19	日		火	避難訓練	金	クラブ活動
20	月		水	歯科検診1・3・6年	土	
21	火	蟻虫卵検査1日目	木	歯科検診2・4・5年	日	
22	水	全校朝会 1年生を迎える会 蟻虫卵検査2日目	金	委員会活動	月	
23	木	心電図検査1年 内科検診1・3・6年	土		火	
24	金	心電図検査1年 内科検診2・4・5年 委員会活動	日		水	たてわり弁当会
25	土	授業参観・懇談会	月	通学バス下校指導	木	英会話学習参観
26	日		火		金	英会話学習参観 委員会活動
27	月		水	児童朝会 たてわり弁当会	土	
28	火	聴力検査2年	木		日	
29	水	学力テスト 4～6年	金		月	小学部実践交流会
30	木	授業参観日の振替休業日	土		火	
31	金		日			

月	7月		8月		9月	
日数	22日				21日	
日	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	水	全校朝会	土	夏季休業日（～31日）	火	始業式 バス班会 開校記念行事
2	木		日		水	全校朝会
3	金	クラブ活動	月		木	夏休み作品展
4	土		火		金	委員会活動
5	日		水		土	
6	月		木		日	
7	火		金		月	
8	水	児童朝会 授業参観・懇談会1・2年	土		火	
9	木	授業参観・懇談会3・4年	日	National Day	水	運動会色別集会
10	金	授業参観・懇談会5・6年 委員会活動	月	振替休日	木	
11	土		火		金	運動会児童係会
12	日		水		土	
13	月		木		日	
14	火		金		月	
15	水	クレッツ祭り準備	土		火	
16	木	クレッツ祭り	日		水	
17	金	Hari Raya Puasa	月		木	
18	土		火		金	運動会前日準備
19	日		水		土	運動会
20	月		木		日	
21	火		金		月	9月19日の振替休業日
22	水		土		火	運動会予備日
23	木		日		水	たてわり弁当会・遊び
24	金		月		木	Hari Raya Haji
25	土		火		金	クラブ活動
26	日		水		土	
27	月		木		日	
28	火		金		月	
29	水		土		火	
30	木		日		水	児童朝会
31	金	終業式	月			

備考 1学期 1～5年：7.3日 6年：7.4日

月	10月		11月		12月	
日数	22日		20日		16日	
日	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	木		曜		曜	
2	金	委員会活動	日		火	
3	土		月		水	全校朝会 たてわり弁当会・遊び
4	日		火		木	
5	月		水	全校朝会	金	委員会活動
6	火	避難訓練	木		土	
7	水	6年修学旅行(予定)	金	委員会活動	日	
8	木	6年修学旅行(予定)	土		月	午前日課 個人懇談
9	金	6年修学旅行(予定)	日		火	午前日課 個人懇談
10	土		月		水	児童朝会 午前日課 個人懇談
11	日		火	Deepavali (暫定)	木	午前日課 個人懇談
12	月		水	児童朝会	金	
13	火		木		土	
14	水	全校朝会	金	クレッチ子コンサート1日目(児童交流会)	日	
15	木		土	土曜参観日 クレッチ子コンサート2日目(保護者向け発表会)	月	
16	金		日		火	
17	土		月	土曜参観振替休業日	水	
18	日		火		木	
19	月		水		金	
20	火		木		土	
21	水	児童朝会	金	クラブ活動	日	
22	木		土		月	
23	金	クラブ活動	日		火	終業式
24	土		月		水	天皇誕生日
25	日		火		木	冬季休業日(～1月6日)
26	月		水	新1年生入学説明会	金	Christmas Day
27	火		木		土	
28	水		金		日	
29	木	外国語活動参観	土		月	
30	金	外国語活動参観	日		火	年末特別休日
31	土		月		水	年末特別休日
					木	年末特別休日
					備考	2学期 79日

月	1月		2月		3月	
日数	17日		19日		1～3年:11日 4・5年:12日 6年:9日	
日	曜	行事	曜	行事	曜	行事
1	金	New Year's Day	曜		曜	
2	土	年始特別休日	日		火	全校朝会
3	日	年始特別休日	月		水	卒業式練習
4	月		火	全校朝会 授業参観・懇談会	木	
5	火		水	授業参観・懇談会	金	
6	水		木	授業参観・懇談会 委員会活動	土	
7	木	始業式 バス班会	金		日	
8	金	委員会活動	土		月	
9	土		日	Chinese New Year	火	卒業式予行
10	日		月	Chinese New Year	水	
11	月		火	児童朝会	木	卒業式前日準備
12	火		水		金	卒業式
13	水	全校朝会	木	クラブ活動 3年生クラブ見学	土	一日入学
14	木		金		日	
15	金	クラブ活動	土		月	
16	土		日		火	
17	日		月		水	修了式 離任式
18	月		火		木	学年末休業日(～31日)
19	火		水		金	
20	水	児童朝会 たてわり弁当会・遊び	木		土	
21	木	フレンドシップ5年	金		日	
22	金	フレンドシップ6年	土		月	
23	土		日		火	
24	日		月		水	
25	月		火	6年生を送る会準備	木	
26	火		水		金	
27	水		木	6年生を送る会 たてわり弁当会	土	
28	木		金		日	
29	金		土		月	
30	土		日		火	
31	日		月		水	
					木	
					備考	3学期1～3年:47日 4・5年:48日 6年:45日 年間1～3年:199日 4・5年:200日 6年:198日

巻末資料:2015(平成27)年度 小学部クレメンティ校年間行事予定
出所:シンガポール日本人学校『学校要覧』2015年、21-22ページより

卷末資料 b

平成 27 年 6 月 11 日

シンガポール日本人学校クレメンティ校訪問時のインタビュー内容

日時：2015（平成 27）年 6 月 6 日～8 日

場所：シンガポール日本人学校クレメンティ校にて

1. 学校の概要

Q. 成り立ち、入会資格、授業料、児童数、教員の構成、先生方の 1 日の仕事の様子、海外学校ならではの問題点など、学校の概要についてお聞かせください。

A, (K 教頭先生) 学校の歴史や、授業料、児童数及び教員の構成などは、このシンガポール日本人学校学校要覧 2015 年版に載っていますので、そちらを見ていただいた方が詳しいです。ホームページ上には載せられないことも書いてあります。クレメンティ校まで来られた方のみお渡ししています。近年は、文部科学省派遣の教員だけではなく、現地校で採用されている教員も増え、割合的には半分半分くらいです。本校に限らず、世界的にこの傾向にあります。担任として即戦力で働いてもらっているのが、新卒では厳しく、日本で数年教職経験をしていらっしゃる方を現地校で採用しています。

あくまでも海外の学校ですので、安全面には十分気をつけています。特に、近年はテロ等が起っています。本学はバス通学ですので、登下校時何かあれば、綿密に連絡を取り合う体制を整えています。

2. 子どもたちの体力比較

Q. クレメンティ校の児童と日本国内の児童の体力比較ができればと思っていますが、クレメンティ校の体力テスト等のデータ等があれば教えてください。

A, (K 教頭先生) 残念ながら体力テスト等のデータはありません。ただ、シンガポール独特の気候もあり、非常に暑いので年中水泳をしています。だから、かなり泳力はあると思います。私が勤務していた日本国内の小学校の児童と比較しても、かなり泳力がついていると思います。

3. 体育授業の実際

Q. 特徴的な授業があれば教えてください。また、イマージョン授業の目的や効果などが分かれば教えてください。

A, (K 教頭先生) 特に特徴的な授業はありませんが、音楽と体育の水泳は、現地のスタッフが英語で教えるイマージョン授業が行われています。後で校舎内をご案内しますので、授業の風景を見ていただくと良いかと思います。英語に親しみ、シンガポールの生活に少しでも適応できるようにというところですが、シンガポールに来たばかりの児童は戸惑いもあるようです。

4. 子どもたちの生活の様子

Q. 普段の遊びやスポーツ、シンガポールならではの子どもたちのスポーツ教室への参加などがありましたら教えてください。

A, (K 教頭先生) 普段の遊びは、どうしても年中暑いので屋内かもしくはプールなどで遊んでいるようです。日陰で縄跳びをしたり、一輪車に乗って遊んだりという姿はありません。

体育の授業も主として、体育館になります。気候的なものと、屋外のグラウンドで行うと地域から音や声に対して苦情が入ります。年に 1 回スポーツデイがありますが、近くのコンドミニアムの住民から苦情が入るので、スポーツデイに向けた 2 学期始めのグラウンドでの授業は、始める前に、コンドミニアムの住民 1 戸 1 戸にグラウンドでの活動への断りとお詫びの文書を配布して、理解を求めるようにしています。日本で言う運動会ですね。それでも神経質な方からは苦情が入ったりします。

5. クラブ活動の様子など

Q. 小学部なので、クラブ活動があるかどうか分かりませんが対外試合や練習など課外活動の様子があればお聞かせください。

A, (K 教頭先生) 遠方からの通学や治安の関係もあり、全員バス通学ですので、課外活動は行っていません。時間になれば一斉下校になります。

6. 地元（シンガポール国内）の小学校とのスポーツ交流や運動交流

Q. 具体的な事例などあればお聞かせください。

A, (K 教頭先生) 文化的な面も含めて、ローカル校（現地の小学校）とは交流がありません。また、中華系の学校やマレー系など、他の外国人学校とも交流がないのが現実です。教職員が短期間で入れ替わりますので、そのあたりも影響しているかと思います。

7. 日本人学校幼稚園や地元（シンガポール国内）の幼稚園との遊び交流やスポーツ交流など。

Q. 具体的な事例などあればお聞かせください。

A, (K 教頭先生) これも交流がないのが正直なところです。近くに、日本人学校幼稚園があります。紹介はできますので、おっしゃっていただければ、ご紹介いたします。

8. シンガポール国内の小学校の体育授業やカリキュラムについて

Q. もしご存じであればお聞かせください。

A, (K 教頭先生) 私も赴任して 2 年目で、なおかつローカル校との交流等がありませんので、分からないというのが正直なところです。